

# 茨城県土浦市立斗利出小学校（学校長 根本 山城）

実施日	平成19年9月26日（水）	時間	午前9時～午後1時30分
実施場所	体育館	対象/人数	1～6年生95名
担当教諭	杉山 俊子	ファシリテーター	小林 郁子
講師	リム・フェキ（チュニジア・留学生） 板橋 国明（タイ・JICA 筑波国際協力推進員）		

## 活動内容

- ・チュニジア・タイの国の文字・あいさつ・お金・民族衣装の紹介
- ・チュニジアの国の様子やアラビア語の歌・ダンスの紹介、児童と一緒に踊る
- ・海外青年協力隊の活動やタイの国の紹介、タイの動物、物の値段の紹介
- ・アラビア語・タイ語で児童の名前を書いてもらう

## 児童の感想

- ・世界には、学校に通えない子どもが、1億3千万人いると板橋さんから教わりました。私達は学校に行けて幸せだと思いました。青年海外協力隊の人たちは、お医者さんが少なかったりお金がなくて学校へ行けない子どもがいる発展途上国に行くと、その国のためにいろいろお手伝いをする仕事をしていることが分かりました。
- ・タイでは、「動物を殺さないこと、盗まないこと」など、やってはいけないことがいろいろあります。その中でもびっくりしたのは、「動物を殺さない」ことです。家の中に入ったハエや虫も殺さないでそのままにしておくことです。あと、タイの季節は3つしかなく、それも全部暑い季節で、一番暑い季節は40度以上になると聞いて、熱中症にならないのかなと思いました。
- ・チュニジアから日本まで13時間もかかると聞いてびっくりしました。断食の時は、太陽が出てから沈むまで何も食べてはいけないそうです。それは貧しくて何も食べられない人達が、どんなふうに過ごしているかを理解するためだそうです。
- ・リムさんはダンスが好きで、みんなの前で踊ってくれました。じょうずでした。代表の友達が前に出て、キラキラした飾りの付いた布を腰に巻いてもらって踊りました。踊るとキラキラした飾りが音がしました。楽しかったです。

## 先生の感想

- ・今回は、青年海外協力隊OBの板橋さんとチュニジアのリムさんにきていただきました。青年海外協力隊の仕事や発展途上国のことなどを聞いて、児童にとってとてもためになったと思います。特に、世界には、学校に通えない子どもが日

本の人口と同じくらいいることには皆驚いていました。コーディネーターの方の協力で、タイ語とアラビア語の文字と日本語との違い、あいさつなど比較してお話していただき、分かりやすかったです。タイ語であいさつする時、どんな時でも「サワディ」で通じることなど不思議がっていました。写真やいろいろな掲示物を用意して具体的に教えてくださり、とてもよく分かりました。チュニジアの方は、ラマダンの期間中だと言うことで何も食べませんでした。それはそれで児童にとって、ラマダンの意義や宗教について考えるいい機会になりました。

## 成果と課題

・昨年度から、より多くの児童が外国の方と触れあえるようにと60分を単位として二部構成で実施しました。結果としてそれでも時間は十分とは言えず、講師の先生方には迷惑をかけてしまいました。今年度は、今までに交流していない国ということで、チュニジアの方と青年海外協力隊OBの方にきて頂きました。お二人とも民族衣装を着て、子ども達が興味を持ちそうなたくさんの資料を提示して下さいました。青年海外協力隊の方から、その仕事や発展途上国のお話を聞くことができるとても良かったです。

これからも国際理解教育の一環として、国際交流教室を実施していきたいと思います。総合的な学習の時間との関連を図って、ただ教えてもらうだけでなく、日本についても発信していけるようにできればと考えています。

